
魔法少女リリカルなのはStrikerS 時空を越えた槍使い

八神刹那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers 時空を越えた槍使い

【Nコード】

N0473BA

【作者名】

八神刹那

【あらすじ】

弟子を庇いその命を散らした如月玖音は何の因果か別世界ミッドチルダへ！そこで玖音は機動六課で働くことに。新たな道を歩む。だが、その世界には宿敵“紅き傭兵”、“殺戮の神”が牙を剥く！玖音は世界を覆う巨大な闇を打ち砕くことができるのか！？玖音の新たな戦いが今始まる！

これは魔法少女リリカルなのはStrikers 時空を超えし

二槍使い のリメイク版です！前作では描けなかった部分や訂正する部分を描きます！

プロローグ

ある世界に一人の“侍”がいた。

その男は戦えば最強の武人。策を練れば今孔明と呼ばれる男だった。

だが、その男は弟子を庇いその命を終えた。

男は4人の弟子にそれぞれ己が極めた“槍術”“剣術”“体術”“魔術”をできる限り伝えた。

残された4人の弟子は彼の意味を引き継ぎ一人前の戦士となった。

その男は戦場で“二刃の槍手”または“槍鬼神”呼ばれ仲間を助けた。

ある時は策を練り、ある時はともに戦い、またある時は1万の大軍をたった一人で引き受け戦った。

まるで英雄のような男だった。

その男の名前は 如月 玖音。第十七代目の十三隊一番隊隊長である。

これは、その男が己を命を終えてからの物語である……。

第巻話 出会いと話し合い

次元世界ミッドチルダ。

古代遺物管理機動六課の医務室。ここで寝ていた1人の青年が目覚ました。

「……………ここどこ？オレ死んだよな？」

青年の名は如月玖音。玖音はしばらく唸りながら考えると

「ま、いいか！生きてるし」

と簡単に考えをやめベットから起き上がり勝手に部屋を出る。

部屋の外は何処かの建物のような。

「……………晃雲寺じゃないな完全に……………。あそこは全部木製だし」

玖音は裸足で建物内を歩き回る。格好は患者着る患者服。一目で分かる格好だ。

「うーん……………。オレはサージエスのキリバチで斬られてそれからあいつを討つて、それからオレ粒子なったよな？なんでこんな場所にいるんだ？」

また考える。すると目の前の通路から3人の少女が現れた。目が合う。

数秒間の沈黙。

ダッ！！

「……あつ！？」「」

玖音は本能的に逃げ出した。

「ちよ！？待ってや！！」

茶髪の少女が玖音を止めようとしたが玖音は逃げた。

「待って下さい!!!」

「ケガしてるんですよ!!!」

亜麻色の髪と金髪の少女が玖音を引き止めるが玖音は建物内を走る。

「こういうシチュエーションだとオレたいてい面倒ごとに巻き込まれるんだよね……。だから、逃げる!!!」

玖音はブツブツ言いながら走る。

玖音は約10分間走り続けた。2人の少女はまだ追ってくる。その前に玖音はまだ建物から出られずにいた。何度も同じ場所をグルグル回っている。

「止まってください!!!」

亜麻色の髪の少女が止めようと叫ぶ。

「だってら追ってくるな!!!追われたら本能的に逃げるだろ!!!」

玖音がロビーを飛び降りる。

「なのは!バインド!」

金髪の少女が亜麻色の髪の少女に言う。

「うん!」

なのはと呼ばれた少女が玖音に向けて手をかざすと

キーン

という音とともに玖音の足に光の輪が絡まり着いた。

突然足を封じられた玖音は

「なっ!?!ダアアア!?!」

派手に転んだ。

「な、なんじゃこりゃ!?!」

玖音は両足に絡まっている光の輪を外そうと必死になっている。

「それは力じゃ解除できませんよ」

2人の少女が玖音の前に立つ。

「逃げたりしなければ名にも危害を加えませんか」
そこにさっきの茶髪の少女がやって来る。

「私たちは何にもしませんから。貴方のことを教えてくれませんか？」

「……そんなことり腹減った」

玖音が言い切った。

「え？」

3人はまさかの言葉にア然と親しい。

20分後。

「イヤー。腹減ってから助かったわ」

玖音は機動六課の食堂で少し遅い昼食を食べた。

「かなり食べましたね……」

「カツ丼、天井に鰻重……それに餃子まで……」

それから5分後。

「私は機動六課部隊長の八神はやてです」
と茶髪の少女が自己紹介する。

「高町なのは一等空尉です」

次に亜麻色の髪の少女が。

「フェイト・T・ハラウン執務官です」

最後に金髪の少女が自己紹介する。

「オレは如月玖音。十三隊の一番隊隊長だ。それよりここはいつた
い何処なんだ？さっきミッドチルダとかじくー管理局とか言う単語
が聞こえたけど。てか、オレはなんでこんなところにいるんだ？」
と玖音が3人に質問する。

「やっぱり次元漂流者やな……」

「ジゲンヒョーリユーシャ？」

「はい。まず今如月さんが置かれている状況を説明しますね」

それから10分ほどはやて、なのは、フェイトの3人が玖音の置かれている状況を説明した。

話を聞いた玖音は腕組みをし

「ようするにここはオレがいた世界とは違っってことか……」

「

「そうなりますね。如月さんがいた世界が見つかれば帰ることはできますので安心してください」

とはやてが言うと

「ああ！それはしなくていい」

と玖音が言い切った。

「な、なんでですか？」

なのはが尋ねる。

「なんでって……ちょっとイロイロやかしたからな。帰りたくないんだ」

「じゃあ。これからどうするんですか？」

「どうするって……オレが持ってた刀が2本あったろ？それ使って傭兵でもやって暮らす」

「如月さんは戦い慣れているんですか？」

「まあな。元の世界で13年戦っていたし」

玖音の言葉にはやては少し黙り

「だったらお願いがあるんですけど。聞いてくれませんか？」

「お願い？」

「はい。ぜひ如月さんの力を貸してください！」

はやてはそう言うと頭を下げた。

「ちよっ！？はやて！？」

「はやてちゃん!？」

それを聞いたフェイトとなのはが驚く。

「如月さんの話を聞く限りだとあまり野放しにはできないしそれにこの世界で傭兵するは大変ですよ」

「そうなの? だったら良いけど」

しれっと言った。

「い、良いんですか?」

なのはが聞く。

「うん。別に構わないよ」

「簡単に決めたね……」

フェイトが呆れる。

「ただし、少し条件がある」

「条件?」

「条件つて言っても部屋と賃金はちゃんと払うってこととこの部隊の設立理由を教えてください」

「最初の2つは約束できますが設立の理由は今はちょっと無理なんです」

「まあ、いいけど。あと、オレの刀返して」

「刀は隊舎を案内するときお返しします」

「わかった。最後にオレのことは玖音って呼んでくれ。オレも名前で呼ぶから」

「そうですか。よろしくな玖音さん」

「よろしくね」

「よろしく」

3人がそれぞれ挨拶した。これが玖音の新たな戦いの始まりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0473ba/>

魔法少女リリカルなのはStrikerS 時空を越えた槍使い

2012年1月6日23時45分発行